

歴史の散歩道

(61)

毘沙門金灯籠

昭和五十年勝山市指定文化財

本町岸の下の、通称「毘沙門」と親しまれる建雷神社の境内にある金灯籠は、江戸期に度重なる大火に苦しんだ勝山町が、防火を祈願して、本町筋のお種坂との辻に建てたもので、毎日火守番によって火が灯される常夜灯であった。明治の頃は三角屋主人が火を守ったという。

この灯籠は、青銅製で高さは台座から宝珠まで約三メートル、六角形の台座は一辺四九センチ、火袋・笠・宝珠の高さはそれぞれ三八、七〇、八五センチである。笠に飾られた火を吹く六つの竜はなかなかの出来栄である。火袋の外側正面に「秋葉山」と記され、脚部正面には大きく「常夜燈」と記される。また、脚部上方には「金光院見性院 現主活道智俗首座 万延元年庚申歳（一八六〇）十月五日建立」とあり、脚部下方に「施主 町・郷中、越中高岡住持物師藤田勘右衛門・般若覚左衛門・当町松下武右衛門・越中高岡請負人開発屋勘右工門」とある。台座には世話人梅田伝兵衛ら二十八人の名が刻まれる。

この灯籠は長洲町の見性院主が発願し、藩の許可を受け、勝山町内および



本町筋に建っていた金灯籠

村むらさ動化に歩きはじめ、これに町の有志が呼応したもので、二十八人が世話人となり、高岡の鋳物師に鋳造してもらったものである。灯籠に「秋葉山」と刻まれているように、「火防ぎの神」として広く信仰を集める秋葉山（静岡県周智郡）の秋葉神社「火之迦具土大神」を勧請（神の分身を迎えて祀る）したものである。

当時、本町筋は写真のように中央に用水が流れ、これをまたいで建てられていたが、昭和初期に馬車や自動車通行の妨げになるとして、建雷神社境内に移されたものである。

勝山市文化財保護委員 増田公輔



編集後記

▶市民のみなさまには、師走の大寒波で、雪下ろしなど重労働で危険を伴う作業を余儀なくされ、大変な苦勞や心配をされましたことに、心よりお見舞い申し上げます。地震や風水害に比べると目立ちませんが、雪害の実態は深刻であり、風土の宿命とは言ってられない面もあります。春の訪れが待ち遠しくても、まだ暦は1月。辛抱強くがんばるしかありません。▶市広報の紙面構成も、この大雪のため急遽変更し、雪害対策を特集に組み入れることとなりました。年が改まり、今年が良い年であってほしいと切に願います。



休日・祝日救急当番医

診療時間▶AM9:00~PM5:00

1/22 (日)	福井社会保険病院 ☎88-0350
1/29 (日)	たけとう病院 ☎88-6464
2/5 (日)	芳野医院 ☎88-2005
2/11 (土)	石川医院 ☎89-1008
2/12 (日)	福井社会保険病院 ☎88-0350

問 消防署 (☎88-0400)



交通事故発生状況

※高齢者=65歳以上

件数内訳	平成17年12月末	前年比
総件数	514件	14
人身事故 (うち高齢者)	98件 (26)	-17 (-7)
死者 (うち高齢者)	4人 (2)	0 (0)
傷者	131人	-18
物損事故	416件	31



1月の納税

市県民税▶4期
国民健康保険税▶4期
納期限 1月31日(火)
口座振替日 1月26日(木)



人口の動き

	11月末現在	自然動態		社会動態		12月末現在	月間増減
		出生	死亡	転入	転出		
男	13,270人	11	-24	10	-19	13,248人	-22
女	14,565人	9	-12	18	-26	14,554人	-11
合計	27,835人	20	-36	28	-45	27,802人	-33
世帯数	8,114世帯					8,132世帯	18

毎月第3日曜は

家庭の日

新しい年を迎え わが家の一年の計画をたてよう



火災発生

☎88-5100(テープ吹き込み)